情報教育演習II 第3回

このページのアドレスはこちら。

- http://arena.hyogo-dai.ac.jp/~kawano/?Lecture/JouhouC2010

「HTML(2)」

前回に引き続き、Webの中心的な技術「HTML」について、実習をします。

HTML(2)

1. 前回の復習
2. メールを送れるようにする
3. 連絡先をつくる
4. リストをつくる
5. 特殊な記号を表示する
6. コメントをつくる
7. 文字を強調をする
8. 文字を整形する
9. 引用をする
10. HTMLのバージョンと文字コードを指定する

今回の課題

1. HTMLファイルを作成する

前回の復習

前回の内容

HTML(Hyper Text Markup Language)を使った、Webページの作成をはじめました。

まず、次のような概念を説明しました。

- World Wide Webとハイパーテキスト
- World Wide WebとHTML
- Webページの作成
- HTMLの書き方

次に、HTMLを使ったWebページの作成として、タグ（文書の構造を示すマーク）をいくつか使ってみました。

- HTMLファイルの「骨組み」をつくる (html, head, title, body)
- 「見出し」をつくる (h1, h2, h3, h4, h5, h6)
- 「段落」と「改行」をつくる (p, br)
- 「リンク」をつくる (hr)
- 「水平線」をつくる (a href)

前回のポイント

提出された課題を見て、いくつか気になるポイントがありました。自分が提出した課題をチェックしてみましょう。

(1) 文書の構造がわかりやすいですか？

「h1、h2」や「p」などの要素を上手く使い分けていますか？
HTMLでは、タグを使うことで、文書の構造（かたち）を表現します。「（大きな）見出し」「（小さな）見出し」「段落」など、人間ならとくに意識しなくても区別できるものを、コンピュータにも区別できるようにするのです。

文書の構造がコンピュータにわかるようになると、文書中のどの情報が重要なのか、「**情報の優先順位（プライオリティ）**」をコンピュータが判断できるようになります。このような技術は「**検索サイト**」でよく用いられており、検索結果で上位に表示されるためには重要になります。

(2) 見出しをきちんと使えていますか？

「h1」要素は、本来、1回だけ使うものなので注意してください。
「h1」は最も大きな（重要な）見出しです。本でいえばタイトルにあたります。その大きな見出しが、2回以上使われている場合があります。

(3) 文字を大きくするために見出しを使ってませんか？

「h1，h2，h3」要素は、「見出し」という構成要素をあらわしているものです。文字の大きさを変えるために使ってはいけません。
「h1→h2→h3…」の順に、見出しの優先順位があり、h1は最も大きなレベルの見出しとなります。次のように、レベルの順番を入れ替えて使うようなことは、できるだけ避けましょう。ただし、「h1→h3…」のように、途中の見出し要素を飛ばすのは、問題ないでしょう。

```
<h1>自己紹介</h1>
<h4>プロフィール</h4>
<h2>リンク集</h2>
```

(4) 段落をきちんと使えていますか？

段落を示す「p」要素の使い方は、ちょっと難しいかもしれません。

段落とは、その中に伝えたい内容を一つだけ書くものです。文章が1つだけの場合もあれば複数ある場合もあります。ある程度まとまった文章を書いたら、「p」要素で段落にしておきましょう。

また、「p」要素を忘れている場合もあります。見出しなのか段落なのかわからなくなりますから、忘れずに段落に指定しておきましょう。

(5) へんな入れ子になっていませんか？

次のように、見出しの中に段落を指定したりしていませんか？ 「見出し」と「段落」は、文書を構成する部品として、同等のものです。タグの使い方には注意しましょう。

```
<h3>
  見出し
  <p>
    あいうえおかきくけこ…
    ……
  </p>
</h3>
```

(6) リンクに使う文字は、具体的ですか？

前回の課題ではとくに指示はしませんでしたが、リンクを作るときに、そのリンクに使う文章はとても重要です。リンク先の内容がわかるような、具体的な文章にしましょう。
よく使われる表現には、次のようなものがあります。

- ページの役割
  - 例: トップページ、ヘルプ
- リンク先のページのタイトル
  - 例: 日付の表記に関するノート
- リンク先のページのタイトル + サイトの名前
  - 例: 日付の表記に関するノート(The Web KANZAKI)

次へ進んで、今回の内容を見てください。

メールを送れるようにする

リンク部分をクリックして、自動的にメールソフトを起動するようにするには、**a要素**と**href属性**を使います。

```
<a href="mailto：メールアドレス">...</a>
```

a要素のhref属性を使えば、リンクを設定することができますが、リンクのURLの部分に「**mailto:メールアドレス**」というように、メールアドレスを指定します。

リンクをクリックすることで、メールソフトが起動し、設定したアドレス宛のメールを作成することができます。

なお、この機能は、メールソフトの機能に依存しているので、すべてのコンピュータ環境に依存します。

例：「c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp」をクリックしたらメールを送れるようにする

```
<a href="mailto:c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp">c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp</a>
```

次へ進んでください。

連絡先をつくる

ページの制作者やその連絡先などに関する情報を記載する場所には、**address要素**を使います。書籍などと同じように、Webページの制作者・責任者を明確にするために使います。

```
<address>...</address>
```

address要素の中には、たとえば、次のような内容を記載します。

- 制作者や責任者の氏名、住所、電話番号
- 電子メールアドレス
- 作成日や更新日
- 著作権の情報

一般には、斜体（イタリック）で表示されます。

HTMLの例

```
<address>
  作成日: 2010-04-20; 更新日: 2010-04-27<br>
  Copyright (C) 2009 兵庫太郎, All rights reserved.<br>
  このページに関する問合せ先:<br>
  E-Mail. <a href="mailto:c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp">c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp</a>
</address>
```

ポイント1「日付の書き方」

国によって、日付の書き方は異なります。たとえば、「09/10/21」という書き方は、日本・イギリス・アメリカで次のような解釈になります。

- 2009年10月21日（日本）
- 2021年10月09日（イギリス）
- 2021年09月10日（アメリカ）

このような混乱を避けるため、Web上の日付の表現を[WWWコンソーシアム（通称W3C）]が作りました。上の例は、次のように書くことができます。

- 2009-10-21

どのように日付を書くかは自由ですが、できるだけ誰もが理解しやすい書き方を心がけましょう。

- 参考リンク
  - [日付の表記に関するノート(The Web KANZAKI)]

ポイント2「著作権の表示」

「**著作権**」とは、「**著作物**」（人が創造したもの）に対して「**著作者**」（著作物を創造した人）が持つ権利です。原則として、著作者の了解なしに、著作物を複製したり販売したりしてはいけません。

Webページに対する、自分の著作権を主張するために、自分に著作権があることを明確にしましょう。一般的に、次のように記載します。

```
Copyright (C) 2010 ほげほげ, All rights reserved.
```

- 「Copyright」は著作権、「(C)」はCopyrightの略です。
- 「2010」は作られた年をあらわし、「2005-2010」となると作られた年（2005年）と最終更新年（2010年）をあらわします。
- 名前は、漢字・ひらがなでも、アルファベット（ローマ字）でも、人物を特定でいればどちらでもかまいません。
- 「All rights reserved」は「すべての権利は著作者にある」という意味です。
- 参考リンク
    - とほほの著作権入門（とほほのWWW入門）

次へ進んでください。

リストを作る

HTMLでは、次のような3種類のリスト（箇条書き）を設定できます。

- 番号なしリスト（・、●、○等）
- 番号つきリスト（1、2、3、a、b、c等）
- 定義型リスト（辞書のような、単語と解説文の組み合わせ）

番号なしリスト

番号なしのリストを作るには、ul要素を使います。リストの項目には、li要素を使います。

```
<ul>
  <li>項目１</li>
  <li>項目２</li>
  ...
</ul>
```

リスト全体は、
～
で囲みます。その中に、各項目を
～
で作ります。

リストを使うときの注意

「リスト」は「段落」と同じく文書を構成するひとつの要素です。そのため、段落（p要素）の中に入れず、一度p要素を閉じてから、リストを作ります。

正しい使い方

```
<p>Webページを記述するには、</p>
<ul>
  <li>HTML(Hyper Text Markup Language)</li>
  <li>CSS(Cascading Style Sheet)</li>
</ul>
<p>などの技術が必要なります。</p>
```

間違った使い方

1行目に終了タグ（ ）、6行目に開始タグ（ ）がありません。

```
<p>Webページを記述するには、
<ul>
  <li>HTML(Hyper Text Markup Language)</li>
  <li>CSS(Cascading Style Sheet)</li>
</ul>
などの技術が必要なります。</p>
```

リストの使い方

リストを入れ子にすることができます。入れ子にすると、行頭のマークが変わります。

```
<ul>
  <li>段落をつくる</li>
  <li>文字を装飾する</li>
  <li>
    <ul>
      <li>大きさを決める</li>
      <li>色を決める</li>
    </ul>
  </li>
</ul>
```

番号つきリスト

番号つきのリストを作るには、ol要素を使います。リストの項目には、li要素を使います。

```
<ol>
  <li>項目１</li>
  <li>項目２</li>
  ...
</ol>
```

リスト全体は、
～
で囲みます。その中に、各項目を
～
で作ります。

番号つきリストも入れ子にできます。入れ子にすると、番号の形式が「a,b,c,...」や「i,ii,iii,...」などに変わりますまた、それぞれのリストを組み合わせた入れ子もできます。

```
<ul>
  <li>段落をつくる</li>
  <li>文字を装飾する</li>
  <li>
    <ol>
      <li>大きさを決める</li>
      <li>色を決める</li>
    </ol>
  </li>
</ul>
```

定義型リスト

辞書のように、「用語」と「その説明」のリストを作るには、dl要素を使います。リストの項目には、dt要素とdd要素を使います。

```
<dl>
  <dt>用語１</dt>
    <dd>説明１</dd>
  <dt>用語２</dt>
    <dd>説明２</dd>
  ...
</dl>
```

リスト全体は、<dl>～</dl>で囲みます。その中に、用語にあたる<dt>～</dt>と、説明にあたる<dd>～</dd>で、リストを作ります。表示するときには、dd要素の部分が字下げして表示されます。

dt要素とdd要素の組み合わせは、1組だけでなく、必要なだけ組み合わせることができます。

```
<dl>
  <dt>ユーザビリティ</dt>
    <dd>「使いやすさ」のこと。usability。</dd>
</dl>
```

次へ進んでください。

特殊な記号を表示する

HTMLでは、「<」「>」「"」などの文字は、タグを記述するときに使われるため、そのままでは表示させることができません。また、HTMLは「 」（半角スペース）は、いつ並んでいても、ひとつのスペースとしてしか表示しません。

このような記号を表示したい場合や、その他の比較的使われる特殊な記号を表示する場合には、次の表のように入力します。

記号	HTMLでの入力	説明
<	<	小なり
>	>	大なり
&	&	アンド（アンパサンド）
”	"	ダブルクォーテーション
（空白）		スペース
©	©	著作権
™	™	商標

HTMLの記述をするときに使われる文字や、特殊な記号は「&〇〇〇;」のような形式で記述します。記述するときは、必ず半角・小文字です。

HTMLの例

```
リンクを作るには、
  &gt;a href=&quot;リンク先のURL&quot;&lt;リンクの文字&gt;/a&lt;
のように記述します。
```

表示の例

```
リンクを作るには、<a href="リンク先のURL">リンクの文字</a> のように記述します。
```

次へ進んでください。

コメントをつくる

HTMLファイルの中にコメントを残しておくには、「<!--」と「-->」を使います。コメントとして記述した部分は、Webページとしては表示されません。

```
<!--...-->
```

HTMLファイルが長くなったり、複数でひとつのファイルを編集する場合など、「ここから...ここまでは○○の内容」などのコメントを記入しておくと、内容を区別できて、編集がしやすくなります。

コメントは好きなように書くことができますが、「--」などはコメントの終わりと認識される可能性があるので、入力するのは避けましょう。

コメントは、複数行にわたって、入力することができます。

```
例：
<!--メニュー：ここから-->
<ul>
  <li>トップページ</li>
  <li>このサイトについて</li>
  ...
</ul>
<!--メニュー：ここまで-->
<!--メニューを更新するときには、
    更新日時は変更しないでください。-->
```

次へ進んでください。

文字を強調する

キーワードや重要な文章など、強調したい単語や文章があって、その部分をわかりやすく見せたい場合には、**em要素**や**strong要素**を使います。

```
<em>...</em>
<strong>...</strong>
```

em要素は「通常の強調」を、strong要素は「より強い強調」を示します。
設定された部分は、強調されたことがわかるように、文字のスタイルが変わります。一般的なブラウザでは、em要素を*斜体（イタリック）*で、strong要素を**太字**で表示します。

em要素とstrong要素の使い分け

なお、このような強調スタイルの使い方は欧米ではよく使われますが、日本では太字や下線を使う場合が多いでしょう。
strong要素だけを使うのもよいのかもしれません。

HTMLの例

```
<strong>ここがポイント</strong><br>
<em>文字の太さを変えるためだけに、emやstoring要素は使わない！</em><br>
各要素の役割を考えて使いましょう。
文字のスタイルを変えるには、CSSを使いましょう。
```

表示の例

ここがポイント
文字の太さを変えるためだけに、emやstoring要素は使わない！
各要素の役割を考えて使いましょう。文字のスタイルを変えるには、CSSを使いましょう。

次へ進んでください。

文字を整形する

本来、HTMLは文章の構造を決めるのが役割なのですが、補助的に、いくつか特徴的な文字の整形方法を紹介します。

スタイルの設定

```
<b>...</b>
<i>...</i>
<sup>...</sup>
<sub>...</sub>
```

ここで紹介する要素は、文章の構造としての意味はありません。補助的な手段として用いられるものです。

b要素は文字を太字で、**i**要素は文字を斜体で表示します。

sup要素は文字を小さくして上側に表示します。**sub**要素は文字を小さくして下側に表示します。数学などの記号によく使われます。

```
次の式は<b>放物線</b>を描きます。
 y = x<sup>2</sup>
```

整形済みテキスト

プログラムのソースファイルや、HTMLファイルなどの中身を空白や改行などをそのまま表示したいときに使うのが、**pre**要素です。

```
<pre>...</pre>
```

pre要素で囲んだ内容が、HTMLファイルに書かれたのと同じように、表示されます。そのため、1行の長さがウィンドウ幅より長くなっても、自動的に改行されません。

```
メールには、次のように書かれていました。
<pre>
Date: Fri, 23 Apr 2010 14:01:07 +0900
From: hoge@ed.hyogo-dai.ac.jp
To: foo@ed.hyogo-dai.ac.jp

...
</pre>
```

次へ進んでください。

引用をする

ほかの文章をまとまった範囲で引用する場合には、**blockquote**要素を使います。また、引用元（出典元）を表すのに**cite**要素を使います。

引用する

blockquote要素では、まとまった範囲を、1つの引用として示します。また、cite属性を使えば、引用もとのURLを示すことができます。

表示としては、引用範囲の左右がインデントされた状態になります。

```
インターネットの歴史については、次のように書かれています。
<blockquote cite="http://e-words.jp/w/E382A4E383B3E382BFE383BCE3838DE38383E38388.html">
その起源は米国防総省の高等研究計画局(ARPA)が始めた
分散型コンピュータネットワークの研究プロジェクトである
ARPAnetであるといわれている。
</blockquote>
```

引用元（出典）をあらわす

cite要素は、引用する内容そのものではなく、書籍や文書のタイトル、著者名などを示します。一般には、斜体（イタリック体）で表示されます。

p属性と組み合わせる場合、次のように使うとよいでしょう。blockquote属性と組み合わせる場合、次のように使うとよいでしょう。

```
<p>
インターネットの歴史については、<cite>RFC2555</cite>を見るとよいでしょう。
<p>
```

また、blockquote属性と組み合わせる場合、次のように使うとよいでしょう。

```
インターネットの歴史については、次のように書かれています。
<blockqupte cite="http://e-words.jp/w/E382A4E383B3E382BFE383BCE3838DE38383E38388.html">
その起源は米国防総省の高等研究計画局(ARPA)が始めた
分散型コンピュータネットワークの研究プロジェクトである
ARPAnetであるといわれている。
<br>
<cite><a href="http://e-words.jp/w/E382A4E383B3E382BFE383BCE3838DE38383E38388.html">インターネット（e-Words）</a></cite>
</blockquote>
```

この場合は、下のように表示されます。

> インターネットの歴史については、次のように書かれています。
>
> その起源は米国防総省の高等研究計画局(ARPA)が始めた分散型コンピュータネットワークの研究プロジェクトであるARPAnetであるといわれている。
>
> *インターネット（e-Words）*

次へ進んでください。

HTMLのバージョンと文字コードを設定する

ここまで、HTMLファイルでよく使われるタグについて見てきました。

しかし、HTMLファイルを公開するときには、書かれた内容が、ブラウザで正しく表示されるように、ファイルに関する情報を設定しておく必要があります。主な情報として、HTMLファイルで使っている「**HTMLのバージョン**」と「**文字コード**」の設定を説明します。

HTMLのバージョンを設定する

HTMLには、前に紹介したように、いくつかのバージョンがあります。

さらに、現在よく使われるバージョンである、「HTML 4.01」や「XHTML 1.0」には、「推奨されている書き方がされているか」「以前のバージョンと互換があるか」など、3種類の区別があります。

そのバージョンや区別を設定するには、「**DOCTYPE**宣言」を使います。

```
<!DOCTYPE ... >
```

DOTYPE宣言は、HTMLファイルの最初の行に書きます。ここでは、HTML 4.01を準拠し（守って）、比較的に自由にいろいろなタグを使えるという設定を紹介します。

課題で作るファイルには、次の設定をしてください。すべて半角文字で入力してください。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
 "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
```

「Transitional」の部分が、HTMLの書き方の種類を決めている部分です。書き方には、「推奨している書き方をしているか／いないか」などで、次の３種類があります。また「"http～.dtd"」の書き方も変わります。

- Strict（厳格に･推奨していない書き方は使わない）
- Transitional（移行的･推奨していない書き方をしてもよい）
- Frameset（フレームが使える･推奨していない書き方をしてもよい）

言語の設定

html要素に**lang**属性を設定することで、HTMLファイルがどのような言語で書かれているかを指定できます。

```
<html lang="言語コード">
```

lang属性は、その要素が書かれている言語を設定するものです。言語コードは、各言語を示す単語が指定されます。「ja」は「日本語の言語コード」という意味になります。ほかには「en」（英語）、「es」（フランス語）、「zh」（中国語）などがあります。

課題で作るファイルには、次の設定をしてください。

```
<html lang="ja">
```

文字コードを設定する

HTMLファイルが書かれた**文字コード**（コンピュータ上の文字の表現方法）を、設定することができます。設定するには、**meta**要素を使って、head要素の中に書きます。

```
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html;
 charset=文字コード">
```

文字コードには、言語ごとにいくつかの種類があります。日本語で使われる主な文字コードには、次の4種類があります。パソコンでよく使われるのは、「シフトJIS」です。

- シフトJIS (Shift _ JIS)
- JIS (iso-2022-jp)
- EUC (EUC-JP)
- UTF-8 (UTF-8)

課題で作るファイルには、次の設定をしてください。

```
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html;
 charset=Shift_JIS">
```

設定ができると...

ここで説明した設定をすると、HTMLファイルの最初の数行は、

```
0 <html>
1 <head>
2   <title>....</title>
3 ...
4 ...
```

から、次のように書き換えることができます。

```
0 <!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
1  "http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">
5   <title>....</title>
6 …
7 …
```

次へ進んでください。

課題: ネット上の記事へのコメントのWebページを作成する

前回と同様に、HTMLファイルを作成していきます。HTMLファイルの内容は、**「インターネット上のあらゆる記事へのコメント」**とします。

1. インターネット上の記事にコメントをする

(1) 情報を集める

インターネットから**自分が興味を持ったニュース等の記事**を1つ探し出しなさい。

テーマは自由ですが、次の点に注意してください。

- 「ニュース」または「ブログ・日記」サイトからを取り上げる（掲示板は×）
- その記事は1つのURLで閲覧できる（1つのWebページにつき、記事は1つ）
- 例:
    - ニュース系: アサヒ・コム、NHKオンライン、Yahoo!ニュース、PC Watch、ESPN F1など
    - ブログ・日記系: アメーバブログ、エキサイトブログ、ココログ、livedoor Blog、はてなダイアリーなど

情報が見つけられたら、次の3つの情報をメモしておきなさい。

- WebページのURL
- Webページのタイトル
- Webページが作成（公開）された日時

(2) 情報にコメントをつける

記事を探したら、次の順に自分のコメントを作りなさい。なお、文字数は、**目安として「200文字以上」**としますが、内容はささいなことでかまいません。

1. 授業の日付を書く
2. **コメントにふさわしいタイトル**を自分で考える
3. コメントの内容を書く
    - 記事を書いた個人名または会社名、サイト名と作成（公開）された日付を書く
    - 1つめの段落で、記事のURLへのリンクを作って、記事の内容を**他人に内容がわかるように要約**する
    - 2つめの段落で、**次に書く自分のコメントに適した**、記事の内容の一部を引用する
    - 3つめの段落で、記事に対して、**自分の意見・批評・思ったことなど**を書く
    - 記事に関連する情報を**2つ**探して、情報へのリンク先を紹介する
        - ウィキペディア http://ja.wikipedia.org/ （用語の解説）
        - 各種サイト（ニュース、公式サイト、事典・用語集サイト、ブログなど）

サンプル：
第3回の課題

2010年4月27日

偉大なチャンピオンを擁護の声

4月23日付けのESPN F1の記事によると、3年間のブランクを経て、
現役復帰したものの制裁を欠く7度のワールドチャンピオン、
ミハエル・シューマッハを擁護する声が上がっている。

F1最高権威の*バーニー・エクレストン*と*ノルベルト・ハウグ*
（メルセデス・ベンツ・モータースポーツ副社長）がシューマッハの走りを

否定的に伝える報道に反論した。
また、弟で元F1ドライバーのラルフ・シューマッハも次のように語っている。

「3年間のブランクを経て、彼自身、昔のようにすぐに勝てるようになるとは思っていない。でも、外からの期待は当然大きい。たぶん、4戦を終えればマイケル（シューマッハ）がトップ付近にいることを願っていたんだろうと思う」
「時間的なことを考えれば、彼はポイントの面でそれほど離されているわけじゃないと思う。僕はすぐに彼が結果を出せると信じているよ」

41歳という年齢のこととと3年間のブランクがありながらも、今も周囲からの期待が集まるシューマッハだが、完走はしているものの開幕以来チームメイトに明らかに後れを取っている。
それでも批判が集まるのは、あまりにも偉大すぎる過去の栄光のせいではないだろうか？

関連情報
・フォミュラー１
・ミハエル・シューマッハ

2. HTMLファイルの作成

今回までに説明したHTMLの技術を使って、考えたコメントをHTMLファイルを作成してください。

注意点は、次のとおりです。

- 前回分
- 情報源へのURLは、その情報源にアクセスできるようにリンクにすること。
- 第2回に紹介した要素を、**1回以上**使用すること。とくに次の要素には注意。
    - title（注：課題のタイトル、h1と同じ内容）
    - h1（注：課題のタイトル、titleと同じ内容）
    - h2（コメントの日付）
    - h3（自分で考えたコメントのタイトル部分）
    - p（コメントの各段落）
    - h4（「関連情報」の見出し部分）
- 今回（第3回）に紹介した要素を、**1回以上**使用すること。
    - ただし、リスト（ul、ol、dl）は、**どれかの一つ要素をを使えばよい**
    - ただし、文字の整形（b、i、sup、sub、pre）は、**どれか一つの要素を使えばよい**
    - ただし、文字の強調は**em要素かstrong要素のどちらか一方を使う**
    - ただし、特殊な記号は使わなくてもよい
- head要素内に、DOCTYPE宣言やlang属性、文字コードの設定をすること
- 下の例を参考に、連絡先と著作権情報をページの最後に記入すること（コピー不可）

```
<address>
 作成日：2010-04-20；更新日：2010-04-27<br>
 Copyright (C) 2010 兵庫太郎, All rights reserved.<br>
 このページに関する問合せ先:<br>
 E-Mail. <a href="mailto：c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp">c2092000@ed.hyogo-dai.ac.jp</a>
</address>
```

3. 課題のタイトルとファイル名

- タイトル:「第3回の課題」
- ファイル名: 次のとおりとします。
    - 「0427」＋「学籍番号」＋「.html」（半角文字で！）
      （学籍番号がC2092000の場合、ファイル名は 0427c2092000.html」）

提出方法

作成したファイルを、次の場所にコピーして提出してください。

- 「マイコンピュータ」→「Fsの資料･課題」→「kawano」→「提出」

提出期限

- 原則として、**平成22年5月11日9時**までとします。
- 期限以後は、特別な理由がない限り、提出を受け付けません。
- 課題のやりなおしは、提出期限まで受け付けます。